

令和4年度第3回三重県新エネルギービジョン推進会議議事録

○議題（1）三重県新エネルギービジョンの改定について

委員

資料2の5「昨今の気候変動に鑑み」を「昨今の気候変動にも鑑み」にしたほうが良い。

事務局

そのように修正させていただく。

委員

「強じんな美し国ビジョンみえ」をはじめとする県の様々な計画と、三重県新エネルギービジョンとの関係性の表をエネルギービジョンの本文に記載することはできないのか？

事務局

先ほどの表は、三重県のホームページで公表しているものであり、用語集等に何らかの形で記載させていただく。事務局で対応することで了解いただきたい。

委員

「昨今の気候変動にも鑑み」という表現について、昨今の気候変動だと一般的で、線状降水帯の発生等、局所的な気候変動等の文言を追加するとよい回答になると考える。

事務局

ご指摘のとおり具体的な表現を追加したい。

委員

2030年の三重県の消費電力について、国の目標値より大きいので、この前提で試算するとこの数字になるという数値を本文に記載することはできないか。

事務局

本文に記載すると、数字が独り歩きしてしまうことを懸念しているところである。あくまで、参考として用語集等に記載することが可能か検討したい。お示ししたものは、発電だけで、熱利用は含まれていない等もあり、記載するとしても誤解を与えない表現としたので、事務局で対応することで了解いただきたい。

委員

資料2の9のパブリックコメントの回答について、三重県は再エネ率が高いので、今は不要であるとはっきり記載したほうが良いのではないか。そのほうが三重県の良さ等のアピールにつながるのではないか。今の回答はつかみどころのない回答だと感じた。

事務局

将来的な可能性を現時点で否定するものではないということであり、「三重県では、太陽光発電施設の設置が進んでいるので不要」と記述することはできないのでご理解いただきたい。

委員

国の第2次補正予算が閣議決定された。省エネ対策パッケージが案としてあり、家庭用としては、住宅断熱性向上のための整備1千億円、給湯器導入促進のための補助金300億円といったものがある。

事業者向けには、従来からある省エネ補助金を単年度ではなく、複数年の投資が可能になるといった制度の抜本的な見直しや、省エネ診断の予算の拡充などが予定されている。このような国の制度も三重県新エネルギービジョンの長期目標の達成に向けて活用していただければと考える。

○報告（１）三重県工業研究所の取組紹介

委員

宇宙空間の太陽電池の変換効率は 30%近いものが採用されているが、メタンの転換率はいくつを目指しているのか？

三重県工業研究所

宇宙空間の太陽電池が GaAs など有害な半導体が使用されているので、日本国内での普及は難しい。しかし、単結晶 Si の変換効率は着実に向上しているため、まだ開発され続ける状況にある。メタン転化率に関しては、理論値の 80%ぐらいを目指す。

○報告（２）三重県地球温暖化対策総合計画について

委員

県の施設の ZEB 化の話だが、ZEB Oriented は何もしなくてもできる。基準を ZEB Ready にするなど、見直していただきたい。

地球温暖化対策課

国は ZEB Oriented 以上で、平均で ZEB Ready 以上にしていくという方針で、県でも高みを目指しているが、他部局との調整もあるので、現時点では、ZEB Oriented 相当以上を目指すということにしている。

委員

排出削減対策と吸収源対策という表現を使い、吸収で農業・林業の果たす役割は大きいと考える。排出と吸収の割合などは把握しているのか。

地球温暖化対策課

排出量に対して吸収は 3 パーセントぐらいと考える

委員

吸収の役割の位置づけを明確にし、農業林業を推奨する方針を示していただけたらと考える。

地球温暖化対策課

農林水産部と協議しながら目標を設定している。現在の計画より高めで設定しているのでご理解いただきたい。

委員

本文の 7 ページの熱量の表と、6 ページのエネルギー消費量の表が少し乖離しているように思う。

事務局

確認させていただく。